



あじさい

Power Alliance Tax Accountant Office
パワーアライアンス税理士法人
News

編集発行人

パワーアライアンス税理士法人
 税理士 若杉 治

〒151-0073
 東京都渋谷区笹塚3-37-1
 第1花井ビル2F
 TEL 03 (5365) 4744(代)
 FAX 03 (5365) 4745
 E-mail info@wakasugi.zei-mu.net

6月

(水無月) JUNE

日	・	12	26
月	・	13	27
火	・	14	28
水	1	15	29
木	2	16	30
金	3	17	・
土	4	18	・
日	5	19	・
月	6	20	・
火	7	21	・
水	8	22	・
木	9	23	・
金	10	24	・
土	11	25	・

6月の税務と労務

- | | |
|--|--|
| 国 税 / 5月分源泉所得税の納付
6月10日 | 地方税 / 個人の道府県民税及び市町
村民税の納付(第1期分)
市町村の条例で定める日 |
| 国 税 / 所得税の予定納税額の通知
6月15日 | 労 務 / 健康保険・厚生年金保険被
保険者賞与支払届
支払後5日以内 |
| 国 税 / 4月決算法人の確定申告(法
人税・消費税等) 6月30日 | 労 務 / 児童手当現況届(市町村役
場に提出) 6月30日 |
| 国 税 / 10月決算法人の中間申告
6月30日 | |
| 国 税 / 7月、10月、1月決算法人の消
費税等の中間申告(年3回の
場合) 6月30日 | |

ワンポイント 親族外承継にも拡充された遺留分の特例

遺留分の特例は、中小企業の事業承継円滑化のため、事業後継者が遺留分権利者全員と合意することにより、生前贈与株式等を遺留分の対象外とすること等を規定した民法の特例制度ですが、対象が親族内承継に限定されていたことから、より活用するため本年4月1日からは対象を親族外承継にも拡充しています。

若者や働き盛り世代が参画できる地域づくり



地域で事業を行っている者ですが、高齢化等の問題で年々地域が衰退してきています。若者や働き盛りの世代が参画できる地域づくりの方法を教えてください。

同志社大学政策学部の新川達郎教授の研究等を参考にアドバイスをしていきます。

1 若者や働き盛り世代と地域づくりの関係性

全国的に見て、地域の若者や働き盛り世代が積極的に地域づくりに関わって成果を上げていく例は多く報告されています。

国や地方自治体、大学、NPO法人などが、地域住民とともに問題解決に取り組む活動も活発です。

少子高齢化と人口減少が進展し、地域の担い手が少なくなつた状況では、次世代の参画は改めて特に重要であると考えられます。

こうした活動の要点は、地域社会を維持できる条件を回復するとともに、単にかつてあつた状況に復帰するというのではなく、これまでとは違った新たな発想や行動様式で地域の活性化を目指し始めた点にあります。しかし現実には、地域と若者や働き盛り世代とのミスマッチが多く見られます。これらの世代と地域が良い関係性を育むためには、地域団体、NPO法人、企業や国、地方自治体、特に市町村の役割は大きなものがあります。

2 若者と働き盛り世代の活躍条件

実際に若者や働き盛り世代が活躍するとき、地域のそれぞれの現場でどのように活動しているのか見てみましょう。

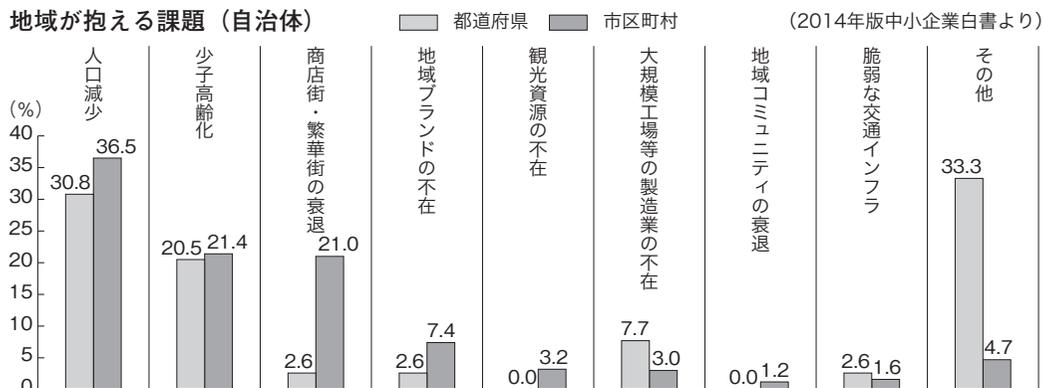
典型的な活動の一つは、地域の現場で若者や働き盛り世代が活動の主体となつて活躍している場合です。

二つ目は、地域の外の団体と連携して活動する場合です。子育て支援や青少年教育、高齢者への福祉、障がい者の就労支援等の事業を若者の発想で展開しています。

また、仕事づくりや商品開発など地域資源に着目した活動があります。例えば、ビールの素となるホップの蔓は通常捨てられていますが、ある高校の生徒が主体となり名刺などの原料として二次活用しています。

三つ目の活動パターンとして、地域社会の一員として、何らか

地域が抱える課題（自治体）



の生業を持ちつつ、伝統的な地域団体活動に参加し、その地域づくりの活動を支えています。

さらなるパターンとして、地域の外にいる若者たちが一時的に地域に滞在し、地域との交流を深め地域活動を行う場合です。森林の整備や農作業、お祭りなど行事の手伝いなどが主な活動です。ボランティア活動、調査・研究、就労体験型のインターンシップ等もあります。

いずれも地域社会の維持や活性化に、これまでとは異なる手法で貢献することになります。

こうした活動の組織は、NPO法人、公益法人、大学、地方自治体が支援しているものは大きくなっています。事業経営も、寄付金や補助金として賄われていることが多くなっています。事にせよ支援にせよ、財政的な基礎があることは必要条件です。

3 活躍できる環境 ↳ 連携から協働へ

若者や働き盛り世代の活躍が期待される地域づくり活動の支援団体は、地域型の各種団体であり、若者等が地域にデビュー

するときの重要なステージとなります。

これらの団体が何を目的として、どのようなルールで運営されているか、地域の側、団体の側から明示する必要があります。

第三者から見ても、わかり易くその活動の魅力を発信できているかなどチェックしておく必要があります。

この他、大学、国や県、市町村、NPO法人などが支援する場合、それぞれの立場の違いを認識しお互いに理解している必要があります。そうすることで地域を基盤とする協働は地域的な価値を創出し、地域の活性化に大きく結びつきます。

4 地域づくりに関わる 次世代人づくり

地域の次世代を担う人的資源をどのように発見し、育て、どのように活躍してもらおうか。そのためには、このような人材がどこにいるか知ることです。

二〇一四年の内閣府世論調査によれば、都市住民のうち、農山漁村地域に定住したい願望を持つている人は三一・六%

二〇〇五年調査時の二〇・六%に比べて一〇ポイント以上増えています。このことから地域移住への潜在的な需要があることは間違いありません。

その地域の人やモノなどに何らかの魅力を感じていたり、子供の頃の体験がカギになることでもあります。地域への思いや気づきを深め、その思いを共有することで地域を刷新する力が発揮されます。

地域づくりに活躍する人は、現場で学びながら育つという側面があります。地域づくりは実践が伴わなければ誰も評価してくれません。そのため、実践する機会を有し、行動の反省や、やり直しも許容することが大切となります。

また、人づくりに際しても学びの環境整備が重要です。

現場の提供やその場の実践だけでなく気づきや共感を深め、地域参画の力を高めることができるか、その地域を越えて幅広く学んでいくことも重要です。

地域への思いや行動の意味を理解し、そうした気づきがある人は育ち始め、成長します。こ

うした環境は地域や関係者、関係団体の中だけでできるものではなく、地域の外とのネットワークを通じて達成できる学びや気づき、育成が必要となります。

人づくりにおいては、交流や連携がカギとなりますので、形だけのネットワークではなく、実際にそのネットワークで働かなければ意味がありません。

これによって外の視点や能力を手に入れることができます。

5 終わりに

高齢化社会及び人口減少が進み、従来あった地域社会を維持する力が弱体化していることは否めません。

このような厳しい条件の中で地域づくりを進めていくためには、何らかの社会刷新が必要とされます。

自分事として、地域の魅力に気づき、関心を持ち、行動を起こすことが重要で、そこから地域づくりへの参画と新たなアイデア(地域の独自の魅力等)の実現が始まります。

これによって地域の未来を拓くこととなります。

設計施工偽装の問題

2015年10月、M建設が施工主となって建設した横浜市のマンションで、工事の一部に不備があったことが明らかになりました。その建設の杭打ち工事を請け負った建材会社が施工報告書のデータの一部を書換え（偽装）していたことを認めたのです。

偽装問題は以前にも起きています。

2005年11月、千葉県にあった建築設計事務所の元一級建築設計士が地震に対する安全性の構造計算書を偽装したことを、国土交通省が公表したことから始まる事件です。国土交通省の問題公表後、建築基準法に定められた耐震基準を満たさないマンションやホテルが全国各地で建設されていたことが次々と明らかになりました。

購入者は泣き寝入りということになり、消費者心理は少し高くても大手建設業者が建築したものにしようという流れになったのですが…。

2015年の事件は「大手建設業者でもルールが守られていないのか」といった批判となり、建設業者全体への信頼が揺らぎました。

なぜ、ルールが守られないのでしょうか？

経営コンサルタント・S氏は以下のようにその原因を指摘します。

- ①国内建設投資の減少により建設業者の生き残り合戦が激化
 - ②重層的な工事請負による利益の減少
 - ③建設業界には序列変更が起こりにくい
 - ④建設業界による事業環境の整備の遅れ
⇒若者が入ってこない等。
 - ⑤人材育成の遅れ
⇒事業計画のないまま経営を行っていたり、熟練工の育成がなされず時代に対応できなくなっている。
 - ⑥建設事業に対する責任とプライド及び魅力の低下
⇒人命にかかわる仕事であり、品質を守る意識が薄れてきている。
- 等です。

歯と栄養

ある栄養専門家は、次のように話します。

「人間の歯並みは実によくできている。歯の形とその数によつて、食べるべき食物をよく考えるべきである。

人の歯は上下合わせて三十二本、うち臼歯が二十本、犬歯が四本、門歯が八本ある。

臼歯は米・麦・豆類を噛むのに便利のようにその名のごとく

臼型にできていて、その数も多い。人間の主食が穀類であることを証明している。

犬歯は先が尖り、肉類を噛み切るのに便利で、歯の数は臼歯の五分の一の四本。

門歯は菜類や果物を噛み切るのに便利で犬歯の二倍の八本。

これらのことから、人間は穀類を主食とし、野菜と果実と、少しの肉類を副食物とするのが理に適った栄養食である」

「試みる」には

多くの中小企業は、ヒト・モノ・カネ・情報などの競争条件が大企業に対し不利なので、経営者は情熱・願望・向上心（メンタル面）を日々鍛錬することが重要になります。

更に、会社の経営を圧迫するようなことでなければ、新しい試みを行う必要があります。

そのためには、経済的・労働的・時間的投資など代償がなくては実現しません。しかし、多くの経営者は、お金は失いたくない、という目先の「小さな欲」と本当に実現するだろうかという「疑いの心」が「試みる」ことをためらわせます。そこで試みるために、

- ①安全な範囲の金額を計算する
- ②個人の費用で先行投資する
- ③研究は早朝か休日をあてる

これらのことで「小さな欲」と「疑いの心」を小さくしていきます。自分なりに作戦を考えて進めていきたいものです。